

令和6年度第1回川崎市地域感染症対策ネットワーク委員会議事録

1 開催日時

令和6年11月19日（火） 19時00分～20時00分

2 開催形式

Z o o mによるW e b開催

3 出席者

(1) 委員

宮沢委員、杉之内委員、福嶋委員、堀田委員、邊見委員、本郷委員、竹村委員、
國島委員、井口委員、熊谷委員

(2) 事務局

保健医療政策部：林担当部長、橘担当課長、小田担当課長、占部担当係長、
砂田担当係長、今井担当係長、関根主任、野木主任、石垣担当、
齋藤担当

健康安全研究所：本間担当課長

保健所支所 ：川崎支所、宮前支所

4 議題（公開）

(1) 川崎市感染症予防計画の評価方法及び進捗状況について

ア 医療措置協定の締結状況について

イ 高齢者施設への出前講座・施設訪問について

ウ 本市における薬剤耐性（AMR）対策の取り組み

(2) KAWASAKI ワンヘルス “One Health” 2024 勉強会について

5 傍聴者

なし

6 議事内容

別紙のとおり

議事内容

(1) 川崎市感染症予防計画の評価方法及び進捗状況について

資料 1－1 について説明（感染症対策担当 関根主任）

ア 医療措置協定の締結状況について

資料 1－2 について説明（災害・新興感染症医療対策担当 砂田担当係長）

イ 高齢者施設への出前講座・施設訪問について

資料 1－3 について説明（感染症対策担当 齋藤担当）

ウ 本市における薬剤耐性（AMR）対策の取り組み

資料 1－4 について説明（感染症対策担当 野木主任）

○質疑応答

邊見委員

- ・老人いこいの家や、各区の老人福祉センターでは、多い時で 200～300 人/日ぐらいの高齢者の出入りがあり、こういった施設にもできれば出前講座をお願いしたいと考えている。
また、基本的には高齢者施設への出前講座ということだが、例えば保育園や幼稚園といったところでもできないか。園で対策をしても親御さんの認識不足で、結局家で家族から感染してしまい、そこから保育園や幼稚園に行って他の子にうつしてしまったというケースがあった。
- ・保健所の体制整備について、感染症有事の際に派遣職員込みで人員の確保数 735 人ということだが、実際には職員が何人で、場合によってはどのぐらいの派遣職員数を必要と見込んでいるのか教えていただきたい。

小田課長

- ・人がたくさん集まる施設、特に高齢者や小さいお子さん等リスクが高い方のところに、特に普及啓発をしていく必要性については認識している。施設数が非常に多いので、今のところはご要望のあったところに順次行っているという状況である。
- ・感染管理看護師さんも普段仕事を持っている方なので、協力を求めつつ、区役所の感染症担当職員も啓発の内容によってはお手伝いできるところは対応していければと考えている。

國島委員長

- ・保育園は多数あり、なかなか全部というわけにはいかないだろうが、こういった保育園等に向けた感染症対策の啓発等は従前からあるのか。

小田課長

- ・保育園職員が集まる会議があるので、そこで話す、という機会はある。パンフレットや啓

発物については、施設に配っている物は今はない。ホームページに載せている物等を参考にさせていただいている。

國島委員長

- ・出前講座での質疑集を作るとおっしゃっていたので、そういう物の保育園版ができるという。保育園は数が多く、もしかしたら悩んでいるところで共通項があるかもしれないので、川崎市共通のパンフレット等ができれば、園だけでなく親御さんの啓発にもつながる。

今井担当係長

- ・保健所の体制についてだが、735 人中、保健所内の職員で想定しているのは 150 人ほどになっている。その他は、保健所以外の市職員であったり、人材派遣であったり、あとは IHEAT であったり、そのようなところを積み上げて合計 735 人となる想定でいる。

國島委員長

- ・ワクチンの接種率低下を懸念している。第 5 期の風疹抗体検査事業も今年度いっぱい終了と聞いているが、接種率は 30% くらいだと聞いている。新型コロナのワクチン接種率について、おそらく 65 歳以上だと 10% はいかないぐらいと思っているが、今どの程度か。

林担当部長

- ・10 月の接種実績は今月判明するので正確な数値は申し上げられないのだが、低調だと伺っている。

國島委員長

- ・世界的に見ても日本だけが突出してワクチン接種率が低く、コロナだけでなく、感染症はやはり予防が一番のポイント、その啓発が本当はもっとできた方がいい、何か行政と共同でできるといい、と思っている。

林担当部長

- ・ウイルス性疾病に関しては積極的勧奨の対象ではないため、個別通知は行っておらず、ホームページや市政だよりなど啓発媒体というのは限られてしまう部分ではあるが、高齢者の方になるべく正しい必要な情報が伝わるような手段で啓発を進めていく必要はあると考えている。引き続き、地域のかかりつけの先生方ともご協力していければと思う。

宮沢委員

- ・國島先生がおっしゃるように、最近ワクチンを打つということを敬遠する人が増えていると感じている。インフルエンザのワクチンについても、最近寒くなかった事と、マイコプ

ラズマや手足口病の流行で打てなかったというのもあると思うが、実際 11 月に入ってもあまり変わらない。

- ・今年から校医を引き受けており、MR のワクチン接種歴は必ずチェックしている。就学前健診で体感的には半数程度は受けていない印象。みんな受けるものだから受けなければいけないと警告すると、それがきっかけとなり受けることとなる。そういったきっかけのようなものがあれば意識が向いて、やっぱり受けなきゃいけないよねという意識が出るのかなと思っている。

國島委員長

- ・本当におっしゃる通りで、MR ワクチンを半数しか打っていない状況であると、今後が不安になる。やはり先生の方から、その時に受けないとダメという風に言ってくださると、おそらく受ける方が多くなると思う。2 割くらいの人しか打ってないと主治医に言われたので打ちませんという人もおり、基本的なことの共有が、医療従事者も含めて必要なのではないか、ということを感じている。ぜひ、子どもも大人も VPD（ワクチンで予防できる疾病）の啓発を進めていきたいと思っている。

邊見委員

- ・今回の兵庫県知事選を見ていると分かるように、最近は、新聞やテレビより、SNS や YouTube を見て情報を得る人が多く、私自身も YouTube を見ると絶対にワクチンを打つな、という情報を目にする。そういうのがずっと出てくるので、私も打たない方がいいのかと思ってしまう。そのような状況なので、行政の方では、ワクチンの接種率を上げるように積極的な啓発や情報発信をしていかなければと思う。

國島委員長

- ・SNS の中でも、YouTube はやはり絶大な威力を持っていて、Lancet にも報告したが、年齢が上がっていくと、YouTube の意見で反ワクになっていく人が日本人の場合は実は多い。いずれにしても SNS は自分にとって都合のいいダークサイドの情報しか得られないようになっており、ホワイトサイドの情報がほとんど出ていない状況だとやはりダークサイドの情報を得てしまう。今週 22 日に全国紙にワクチンについての一面広告を出すけど、そういう普通の人にも見られる媒体での啓発が大事だと思う。今の日本の状況を見ると、将来の感染症対策に対して危機感を持ってしまう。
- ・WHO では、医療従事者のワクチン接種は年に 1 回を推奨している。9 月の答申でも変わらずに年に 1 回であったが、韓国、シンガポール、台湾、アメリカ、オーストラリア、フランスは年に 2 回以上接種している。今のところ XBB のワクチンだと、今年の論文で発症防止効果が 54%あり、死亡予防効果と重症化予防効果が大体 60 から 70%だと報告されているので、やはり今の XBB のワクチンを打つのがよい。

宮沢委員

- ・どんなにエビデンスを組んでも、権威に対する反発という意識を持っている人がいる。どのようにして情報が正しく組み立てられているかというのまでアピールしなければならない。偏った意見がどうおかしいのかということを詰めていかないと、結局また同じことになると思っている。
- ・行政にお願いしたいのが、偏った意見はこういう理由でおかしいというところまで詰め、うちはこういう情報があるから確かだ、ということまで言ってほしい。

國島委員長

- ・どのように情報を判断して周知・情報共有をしていくかは、やはりコミュニケーションも含めてだと思うが、新しいツールも次々できているということも含めて、非常に困難な局面になってきていると認識している。差別や偏見については感染症の長い歴史で経験してきたもので、逆に今そういう状態になっている時期なのではないか、と思わざるを得ないこともある。

宮沢委員

- ・HPV ワクチンは、産婦人科の先生が打ってくれているので、ありがたく思っている。HPV ワクチンに関しては、ワクチンを打てば防げる、もしかしたら起こってしまうかもしれないが、子宮がんにならない可能性の方が高ければどうしますか？と言うとたいてい説得できる。あとは日本人の集団心理で、みんなやっているからといって駆け込んでくるパターンもある。

國島委員長

- ・ネットワーク委員会では、情報の共有を今後どうするのかというのは大きな命題だと思う。ありがとうございました。

(2) KAWASAKI ワンヘルス “One Health” 2024 勉強会について（國島委員長）

○質疑応答

なし